

2024年度表彰受賞者の紹介



2025年6月10日 第15期定時社員総会での記念撮影（経団連会館）

2024年度に各種委員会やプロジェクト等の活動において、次頁以降の皆様が受賞されました。それぞれの受賞理由と受賞者コメントを掲載いたします。なお、受賞者の役職は2025年6月30日時点のものです。

部門	奨励賞 (個人)	奨励賞 (連名)	功績賞 (個人)	功績賞 (連名)	功績賞 (グループ)	合計
戦略企画部	1		1		1 (16)	18
医事コンピュータ部会	1		4			5
医療システム部会			4	1 (3)		7
標準化推進部会		1 (3)	1			4
保健福祉システム部会						
事業推進部				1 (3)		3
総務会	1					1
合計	3名	3名	10名	6名	16名	38名

奨励賞 戦略企画部	企画委員会 委員 (富士通Japan(株)) もりもと たくと 守本 拓人 
医療情報システム入門コーステキスト作成新手法 導入と精度向上	

受賞理由：

医療情報システム入門コースのテキスト見直し（第1単元、第2単元）において、テキストデータからのAI音声データ作成ソフトを活用し、各ページの音声での解説を実現し、今後の資料更新時の負荷を大幅に軽減できる環境を構築した。

AI音声データ作成ソフトは、イントネーションや話すときの速さなどの編集が重要であり、更に事前に指定されている講義時間内に説明が収まるよう文章表現などの調整を根気よく行う必要があるが、一連の作業をチームリーダとして牽引した。

今回の成果として、録音時の状況や音声の大きさ、声色の違いによる聞き手の違和感も軽減でき、またページ毎に講師を変えることもできるため、来年度以降は解説内容の変更に合わせて音声ファイルの差し替えのみで対応が可能となる。

守本拓人さんのコメント：

この度は、2025年定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。

本取り組みは、テキストデータからAI音声データを生成し、資料更新の負荷軽減に貢献することを目的としておりました。

毎年少しずつ委員も変わっていく中で、講師担当が変わっても、AI音声データ作成ソフトによる解説を可能にし、音声ファイルの差し替えのみで対応できるようになったことは大きな成果です。イントネーションや話速の調整、文章表現の工夫など、多くの課題がありましたが、チーム一丸となって乗り越えることができました。

この受賞を励みに、今後も医療情報の発展に貢献できるよう、より一層精進してまいります。ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

奨励賞 医事コンピュータ部会	歯科システム委員会 歯科改正分科会 副委員長 (株)モリタ こもり かずひで 小森 一秀 
令和6年度診療報酬改定及び 歯科標準化活動への貢献	

受賞理由：

1. MEDIS「歯科分野の標準化委員会」に参加され、歯科標準病名マスタのメンテナンス、標準歯式コード仕様の改定に向けた検討に参画、歯科診療所向けシステムベンダ唯一の委員として意見を発信し、委員会においても随時状況報告を会員に行っている。また、歯式表現におけるHL7 FHIR対応に関する検討にも今後参画し、委員会においても随時状況報告を会員に行う。
2. 令和6年度診療報酬改定において、歯科分野で発生する各種疑義のとりまとめ及び関係機関への疑義照会を中心として行い、会員のスムーズな診療報酬改定作業の実施に大きく貢献した。また、令和6年度診療報酬改定施行後の長期収載品の選定療養の施行や令和7年4月の中間年改定においても対応を行い、委員会において要点を整理した報告を実施した。

奨励賞 総務会	女性活躍タスクフォース 委員 (株)TMJ ひろた ゆき 廣田 有貴 
女性活躍セミナー パンフレット刷新	

受賞理由：

1. 2023年度、2024年度の女性活躍セミナーにおいて、セミナーのパンフレット作成を担当し、各メンバーの意見を取り入れながら、自社のデザイン専門家にも協力を仰ぎ、従来のデザインを刷新した。色や文字のサイズなどユニバーサルデザインを採用したパンフレットは、多くの会員や参加者から大好評で、セミナー勧誘に大きく貢献した。
2. グループ交流会においても、参加者の自由なディスカッションに積極的に加わり、参加者の悩みに共感し、質問にも真剣に応え、JAHISでの活動の有効性のPRに大いに貢献した。

廣田有貴さんのコメント：

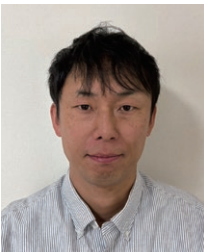
この度は、定時社員総会におきまして奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。

日頃よりご指導いただいております委員会の皆様、ならびに選考に関わられた皆様に、心より御礼申し上げます。

弊社はセコムグループの一員として、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サービスを通じて、医療分野をはじめ様々な分野で業務効率化や品質向上の支援を行っております。

女性活躍TFでは、医療業界内の多様性推進に向けた取り組みの一環として、セミナー運営にも携わせていただいております。活動を通じて、業界の課題や可能性について多くの学びを得ることができました。

今後も、業界の発展に微力ながら貢献できるよう、委員会活動を継続してまいります。引き続きご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

奨励賞（連名） 標準化推進部会	国際標準化委員会 委員 セコム(株) あまづら はるよし 雨面 晴好 
国際エキスパートとしてHIMSS参加による JAHIS国際活動拡大への貢献	
国際標準化委員会 委員 日本光電工業(株) ながせ かずや 永瀬 和哉 	国際標準化委員会 委員 日本光電工業(株) たかお ともみ 高尾 友美 

受賞理由（雨面晴好さん、永瀬和哉さん）：

2024年3月に国際エキスパート就任後初となるHIMSS24（米国 オーランド）に現地参加し、JAHISの国際活動拡大に貢献した。現地にて、医療従事者、IT専門家、政策立案者等によるセッションを受講・学習し、HIMSS24調査報告書（作成期間：2024年4月～7月）の執筆を担当した。報告書は国際標準化委員会での発表後、JAHISホームページ*でも公開されている。（*JAHISホームページトップ＞部会情報＞標準化推進部会＞国際活動）

表彰受賞者紹介

2025年3月にはHIMSS25（米国 ラスベガス）にも現地参加し、調査報告書を執筆中である（HIMSS25調査報告書は2025年8月に公開予定）。

また、HIMSS開催地にて、産・学・官とのネットワーキング強化を行い、JAHISのプレゼンス向上にも貢献している。

雨面晴好さんのコメント：

このたびは奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。

HIMSS24およびHIMSS25に国際標準化委員HIMSS担当として参加し、最新動向を視察する貴重な機会を得ました。各国の先進的な取り組みに触れ、多くの学びと刺激を受けました。

今後は得られた知見を国内医療の標準化推進に活かし、グローバルな視点で医療ITの発展に貢献してまいります。

永瀬和哉さんのコメント：

この度、奨励賞を受賞することができ、大変光栄に思います。

私はこれまで、北米のHIMSS24とHIMSS25に参加し、バーチャルケアやサイバーセキュリティを中心に米国の医療トレンドを調査してきました。現地での調査を通じて、米国の医療がデータをどれほど活用しているかに非常に驚かされました。

また、今後はAPACでの調査の機会もいただけることになり、これを大いに活かしていきたいと考えています。北米での学びをもとに、APAC地域特有の課題や可能性を探究し、さらなる知見を得ることを目指します。

私自身の経験としても、医療の現場でデータを活用することで、より良いソリューションを提供するために模索し続けたいと思います。

最後になりますが、JAHISの皆様にご心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

受賞理由（高尾友美さん）：

2024年5月に国際エキスパート就任後初となるHIMSS EU24（イタリア ローマ）に現地参加し、JAHISの国際活動拡大に貢献した。現地にて、医療従事者、IT専門家、政策立案者等によるセッションを受講・学習し、報告書を作成した。

報告書は国際標準化委員会での発表後、JAHIS会員向けアーカイブ※にも掲載されている。

（※JAHIS会員ページ>ファイル>アーカイブ>JAHISアーカイブ>海外報告書>2024_HIMSS_EU）

功績賞 戦略企画部 絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」制作	絵本製作タスクフォース サブリーダー 日本事務器㈱ つじ まさみ 辻 雅美 
---	---

受賞理由：

JAHIS 創立30周年事業として企画された、絵本タスクフォースにおいて、サブリーダーとして絵本制作を牽引し、“絵本制作”というJAHISで先例のないプロジェクトに挑み、スケジュール通り絵本を完成させた。

「データ循環型社会」というキーワードのみを頼りに作業を開始し、タスクフォースメンバー間の意見調整、出版社との折衝、作家とのコミュニケーションなど、同時並行的に発生する複数事柄に対して、誠実に対応しプロジェクトを完遂した。絵本制作は“JAHIS活動を国民に対して普及させる”という新たな試みに対して、一つの手法を示すものとなった。

辻雅美さんのコメント：

この度は、第15期定時社員総会にて、「功績賞」をいただき、誠にありがとうございます。

今回の受賞は、ひとえに絵本製作タスクフォースのメンバー全員で力を合わせた結果であり、心より感謝申し上げます。

私たちが手掛けた絵本は、JAHIS創立30周年記念事業の一つとして、JAHISが掲げる「データ循環型社会」の理念をより多くの方々に知っていただくことを目的に制作しました。メンバー全員が絵本制作は初めての経験でしたが、絵本専門業者の皆様にも多大なるご協力を賜り、予定通り完成させることができました。

この一冊には、メンバーそれぞれの経験とこだわりが詰まっています。特に、絵本のキャラクターである「メディたん」は、私たちにとって非常に愛着のある存在となりました。

完成した絵本は、医療機関の皆様から「絵本をもらってとても嬉しい」といった温かいお声を多数いただいております。また、この絵本を医療機関へお届けするにあたり、本当に多くの方々にご支援とご協力をいただきましたこと、深く感謝しております。

JAHIS会員の皆様には、この絵本がより多くの方々の手にとられ、「データ循環型社会」やJAHISの活動について、広く知っていただけるよう、医療機関への配布にご協力いただけますと幸いです。

このような意義深い事業に携われたことを大変光栄に思います。今後もJAHISの発展の一助となれるよう、尽力してまいりますので、引き続きご支援、ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会

JAHIS技術文書制定への貢献及び
専門委員就任による活動貢献

調剤システム委員会 副委員長
ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)

なか こ とよあき
中湖 豊明



受賞理由：

1. 調剤標準化分科会サブリーダーとして、以下の技術文書策定に寄与した。

- ① 「JAHIS院外処方箋2次元シンボル記録条件規約 Ver.1.9 (2024年6月制定)」
- ② 「JAHIS院外処方箋2次元シンボル記録条件規約 Ver.1.10 (2024年9月制定)」
- ③ 「JAHIS電子版お薬手帳データフォーマット仕様書 Ver.2.6 (2024年9月制定)」
- ④ 「JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.1 (2024年10月制定)」

特に③においては、厚生労働省から電子版お薬手帳ガイドラインが示されている中、技術文書での規定に対する改版仕様の取りまとめを行った。また、④においては、2023年度に策定したVer.1.0に対し、電子処方箋運用において、レセプトコンピュータがオンライン資格確認端末から取得する「電子処方箋関連ファイル」および「オンライン資格確認関連ファイル」を電子薬歴システムへ連携する為の方法を追加するため、厚生労働省など他団体との意見交換会を実施する等、関係者との調整に苦心しながら作業を進めた。本技術文書は、薬局における電子処方箋普及に向け、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダーが効率的にシステム連携できる環境作りに貢献するものとなっていく事を期待されている。

2. 調剤システム委員会副委員長、調剤標準化分科会サブリーダーとして活動している中、日本医療情報学会で「用法課題検討WG」が立ち上がり、WGの一員として参画。日本薬剤師会および日本病院薬剤師会が制定した標準用法用語集のJAMI 用法と電子処方箋用法の精査、各ケースによる対応のガイド作成や課題への対応を進めていく事に積極的に参加し、調剤システムの立場から意見具申した。

中湖豊明さんのコメント：

この度は表彰を賜り、誠にありがとうございます。今回の受賞は、関係者の皆様の多大なるご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

JAHIS技術文書の改訂では、令和6年度診療報酬改定による更新、電子処方箋の普及に対応する形で複数の文書を更新いたしました。「JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.1（2024年10月制定）」では、レセコンから電子薬歴への連携仕様を策定しました。これにより、電子処方箋の活用促進や薬局内システムの連携強化に、少しでも貢献できれば幸いです。

また、日本医療情報学会の用法課題検討ワーキンググループでは、JAMI標準用法規格と電子処方箋用法が混在する現状に対応すべく、ケース別のガイド作成や課題解決に取り組んでまいりました。これらの成果は、日本医療情報学会より厚生労働省に意見書等として提出され、2025年7月1日改訂の「電子処方箋管理サービスの処方箋情報等を記録するための用法マスタ」に反映されております。

今後も引き続き、保健医療福祉情報システム工業会を通じて、日本の医療に貢献できるよう、皆様のご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

功績賞	医事コンピュータ部会	調剤システム委員会 調剤標準化分科会 サブリーダー 東日本メディコム(株) の も と た だ し 野本 禎 
調剤システム委員会初の日本薬剤師会専門委員会 委員就任による活動貢献及び JAHIS技術文書 制定への貢献		

受賞理由：

1. 日本薬剤師会に設置されている「薬局システム委員会」への委員委嘱を受け、定期開催される会議に出席している。日本薬剤師会に設置されている委員会への委員委嘱は、JAHIS調剤システム委員会初の事例であり、委員会の場で、電子処方箋におけるダミーコードや単位変換に対する問題に対し、電子処方箋管理サービス記録条件仕様の変更に対する情報提供を行った。当件に対する厚生労働省から日本薬剤師へ記録条件仕様の変更案内がない中、JAHISから情報提供を行う等、医療DX施策に関するシステムベンダとしての意見具申や、関係機関から入手した情報を展開する事により、JAHISのプレゼンス向上に大きく貢献している。
2. 調剤標準化分科会サブリーダーとして、守屋分科会リーダー、中湖サブリーダーと共に4種の技術文書策定に寄与した。特に「JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.1（2024年10月制定）」においては、電子処方箋運用において、レセプトコンピュータ/電子薬歴間のデータ連携方法を標準化することで、薬局における電子処方箋普及に向け、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダーが効率的にシステム連携できる環境作りに貢献するものとなっていく事を期待されている。

野本禎さんのコメント：

このたびは、功績賞という栄えある表彰を賜り、誠に光栄に存じます。

今回の受賞は、調剤システム委員会として初めて日本薬剤師会専門委員会の委員に就任し、同会での活動を通じた貢献ならびに、JAHIS技術文書の制定への寄与を評価いただいたものと伺っております。

思い返せば、JAHIS活動に関わるきっかけは、長野県上田市の薬局に勤務されている薬剤師の先生から、「君は電子薬歴については詳しいが、調剤報酬については理解が足りないね」とご指摘を受けたことでした。それを機に、調剤報酬の仕組み

を学び始め、以来20年以上にわたり、調剤システム委員会の活動に参加させていただいております。

JAHIS技術文書の策定にあたっては、薬局内システムの業務内容をはじめ、ベンダー間のインターフェース仕様、システム連携の方法、データセット項目など、広範囲にわたる検討が求められます。そのような中で、日本薬剤師会専門委員会の委員として参画することで、実際に薬局でシステムを活用されている委員の皆様のご意見を伺いながら、標準化分科会および各ベンダーとの関係構築に貢献できればと願っております。

最後に、これまでご指導いただきました調剤システム委員会ならびに標準化分科会の皆様に、心より感謝申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会 調査研究事業 「医療DXにおける令和6年度診療報酬改定の振返り」の完遂	記載要領電子化WG サブリーダー 富士通Japan(株) いしかわ こうじ 石川幸司 
--	---

受賞理由：

1. 一般財団法人 医療保険業務研究協会・令和6年度受託事業（調査研究事業）「医療DXにおける令和6年度診療報酬改定の振返り」において、リーダーが繁忙な中、サブリーダーとして自ら率先して具体的な提案・運営を行う等、本研究を主導した。その成果として約70頁におよぶ論文をまとめ、活動を完了した。
2. 今年度実施した会員アンケート調査 「令和6年度診療報酬改定（施行日の2か月後ろ倒し）の影響」について、企画・実施・取りまとめの実施にあたり、チームを主導し、主体的に活動した。当該アンケートは、41項目/件の設問に対して、有効回答数593件（117社）と規模の大きいものであり、実際に診療報酬改定対応作業に関わった作業員において、診療報酬改定DX施策である「2か月後ろ倒し」がどのような影響を与えたかを客観的に知る上で価値のあるものとなり、その分析結果を研究成果（論文）になるようにまとめた。
3. 本調査研究成果（論文）は、医療保険業務研究協会より、厚生労働省はじめ関係機関および一般に公開されることになっており、JAHISのプレゼンス向上への貢献とともに、JAHIS会員が今後の診療報酬改定対応作業を行うための環境改善に向けても十分に貢献するものとなっている。

石川幸司さんのコメント：

この度は功績賞を賜り、誠にありがとうございます。

今回の受賞は、私一人の力で成し遂げられたものでは決してありません。リーダーの柴田さんをはじめ、WGメンバーの皆様、論文作成にあたり、多大なるご尽力を賜りました株式会社社会保険研究所の高橋様、井口様、そしてJAHIS事務局の前田部長に、心より感謝申し上げます。皆様の知識とご協力なしには、今回の論文を完成させることはできませんでした。

今回の論文では、診療報酬改定の施行日を2か月後ろ倒しにしたことによる影響について調査いたしました。大規模なアンケート調査を実施することで、多数のベンダ様から貴重なご意見をヒアリングすることができ、客観的な評価を行うことができました。ご協力いただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、来年度も新たな論文の執筆に積極的に取り組んでいく所存です。

功績賞 医事コンピュータ部会 会員サービス向上に向けた マスタ委員会活動への貢献	マスタ委員会 委員 ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株) なかじま みわ 中嶋 美和 
--	--

受賞理由：

1. 令和6年度診療報酬改定にて施行された「長期収載品の選定療養」について、保険請求で必要となる情報が複数のマスタに点在する状況であったため、JAHIS医薬品マスタのオプションファイル（YJコード変換テーブル）への一元化を検討した。レイアウト案の作成、開発元との調整を積極的に行い、JAHIS医薬品マスタの利便性向上を実現させ、会員サービスの向上に貢献した。
2. 一般社団法人医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）にて設置する「個別医薬品コード（YJコード）リスト」審査委員会において、オブザーバーとして参画し、個別医薬品コード（YJコード）の標準化の推進に貢献した。
3. マスタ委員会開催においては、医薬品マスタや保険者番号辞書の更新状況を毎回資料にまとめ、会員へ情報を展開し、各社の対応漏れ防止に努めた。

中嶋美和さんのコメント：

この度は、2025年度定時社員総会での表彰、ありがとうございます。

今回は、マスタ委員会副委員長所属時の受賞となります。

JAHIS医薬品マスタの担当しており、令和6年10月の長期収載品の選定療養改定に伴うカラム追加等、会員会社様に有益となる情報の付加を行ってまいりました。

今後も引き続き、保健医療福祉情報システム工業会を通じて、医療DXの実現に向けた取り組みを行っていききたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準「JAHIS「製造業者/サービス事業者 による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5 (MDS/SDS)」改定等	セキュリティ委員会 開示説明書WG リーダー ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株) む しゃ よし の り 武者 義則 
---	---

受賞理由：

1. JAHIS標準 24-005「JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5.0（MDS/SDS）」の改定作業を完遂し出版した。
2. 開示説明書WGリーダーとしてチェックリスト改訂、Q&A改訂などの作業をとりまとめ、適切なタイミングで公開を実施した。
3. 標準化セミナーにおいて講師としてJAHIS標準の普及促進活動を実施した。

武者義則さんのコメント：

このたびは、社員総会という意義深い場で表彰いただき、誠にありがとうございます。2024年4月より、セキュリティ委員会

JAHIS-JIRA合同開示説明書WG（以下、本WG）のリーダを務めております。

本WGでは、MDS/SDSチェックリストの標準フォーマットの作成を通じて、医療機関・薬局のサイバーセキュリティの確保に貢献することを目指しています。近年、医療機関・薬局に対するサイバー攻撃が深刻化する中、厚生労働省は、2023年4月に医療法施行規則及び薬機法施行規則を改定して医療機関・薬局へサイバーセキュリティの確保を義務化、2023年5月には「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（以下、安全管理ガイドライン）」を第6.0版に改定、立入検査で確認するサイバーセキュリティ対策チェックリスト（以下、対策チェックリスト）を毎年更新するなど次々と施策を打ち出しています。

そして、安全管理ガイドラインでは医療機関等と医療情報システム・サービス事業者（以下、ベンダー）間のリスクコミュニケーションが求められ、MDS/SDSの活用を例示しています。また、対策チェックリストではMDS/SDSの授受を求めています。本WG活動はその実現を支える重要な役割を担っており、責任の重さを実感しています。

今後も、本WGでは安全管理ガイドラインの改定に応じたMDS/SDSチェックリストの標準フォーマット改定や、JAHISセミナーの講演を通じたMDS/SDSの周知・啓発を継続していきます。さらに、ベンダーの皆様とのMDS/SDS作成支援となるよう、JAHIS窓口やJAHISセミナーのアンケートに寄せられたご質問への対応と、それを反映したQ&A集の拡充を行ってまいります。これらの取り組みを通じて、医療機関・薬局とベンダーの皆様とのリスクコミュニケーションを促進し、その先にいる患者さんへの地域医療サービスの継続性確保に少しでも貢献できれば幸いです。

なお、2025年1月にMDS/SDSチェックリストが厚生労働省標準規格に認定され、今後のさらなる普及が期待されています。本WG活動の重要性も一層高まっていると感じております。

最後に、JAHIS及び（一社）日本画像医療システム工業会（JIRA）のメンバーに加え、（一社）電子情報技術産業協会（JEITA）及び（一社）日本クラウド産業協会（ASPIC）の皆様にも多大なるご協力をいただきました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準「リモートサービス セキュリティガイドラインVer.4.0」の制定等	セキュリティ委員会 リモートサービスセキュリティWG リーダ サイバートラスト(株) まつもと よしかず 松本 義和 
--	---

受賞理由：

1. JAHIS標準 24-004「リモートサービス セキュリティガイドライン Ver.4.0」の改定作業を完遂し出版した。
2. リモートサービスセキュリティWGリーダとして適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。
3. 審査支払基金、医政局、消防庁などからの依頼によるリスクアセスメントに協力し、適切なフィードバックを実施した。

松本義和さんのコメント：

この度は第15期定時社員総会において功績賞をいただき、誠にありがとうございます。長年にわたるWGメンバーの多大なご協力があったの表彰であり、WGメンバー並びに関係者に深く感謝申し上げます。

JAHIS標準「リモートサービスガイドライン」は初版から20年が経ちました。最新版では、リモート保守に関するリスクアセスメントの手法を紹介するとともに、SLA（サービスレベル合意書）とSDS（医療情報サービスを対象とした医療情報セキュリティ開示書）の作成についても詳細な解説をしています。また、このJAHIS標準は、医療機関や医療サービスベンダのみならず、介護や救急医療など広い分野で活用いただいています。医療情報システムに係わる安全性と安定性の向上に寄与できれば幸いです。

リモートサービスの不備に起因するセキュリティ事故が発生してしまったことを真摯にとらえながら、このJAHIS標準の普及・啓発活動にも努めていく所存です。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	セキュリティ委員会 電子保存WG リーダ 日本電気(株) こんどう まこと 近藤 誠 
JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0Cの制定 JAHIS標準「JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.5」の策定等	

受賞理由：

1. JAHIS標準 24-006 「JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.5」の改定作業を完遂し出版した。
2. 電子保存WGリーダーとして適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。
3. JAHIS会誌への寄稿など、JAHIS標準の普及推進に貢献した。

近藤誠さんのコメント：

この度は、第15期定時社員総会で表彰頂き、大変光栄に思います。今回、表彰を頂けたのは、WGメンバー並びに関係者の多大なご協力があったからこそです。深く感謝申し上げます。

JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインは、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」（以下「安全管理ガイドライン」とします）のセキュリティ要件に対応するための「システム実装する場合に役立つ対応策」と「運用で実現する場合の対応策」についてまとめたJAHIS標準です。今回の改訂は安全管理ガイドライン第6.0版に対応したものとなります。

今後は、安全管理ガイドラインの改訂に追従して、セキュリティ要件のシステム実装や運用での実現策を充実させるとともに、本ガイドラインを含めた、JAHIS標準、技術文書の普及を図っていくことで、ヘルスケア分野のセキュリティ確保に対して貢献できれば幸いに存じます。引き続き皆様からのご支援、ご協力を頂くと共に、「JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインver.5」の活用についても、よろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	部門システム委員会 臨床検査システム専門委員会 臨床検査データ交換規約改定WG リーダ (株)エイアンドティー ちば のぶゆき 千葉 信行 
JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0Cの制定	

受賞理由：

1. 臨床検査データ交換規約改定WGリーダーとして改定作業をリードし、2024年7月にJAHIS標準「JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0C」を制定した。改定に関しては、「JAHIS データ交換規約（共通編）Ver.1.3」及び他のデータ交換規約個別編、IHE-PaLMテクニカルフレームワーク等との整合性確保、日本HL7協会発行「HL7V2.5日本語訳見直し版」の反映を行った。
2. IHE-PaLMテクニカルフレームワークとの整合においては分析機に特化したLAWプロファイルで採用されたトランザクショ

ンを本規約に収載した。LAWプロファイルでは実用上の利便を図ってHL7の新しい版（Ver.2.9など）で追加されたセグメント、フィールドを多く採用している。HL7 Ver2.5を基本とするJAHISデータ交換規約への反映の方法に苦慮する場面もあったが、本規約に収載したことで日本の分析機及び臨床検査システム関係者の実装への貢献が期待できる。

千葉信行さんのコメント：

このたび、「JAHIS臨床検査データ交換規約5.0C」の策定において、臨床検査データ交換規約改定WGのリーダとして表彰を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。まずは、WGメンバーをはじめ、JAHIS関係者の皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

本WGでは、臨床検査業務におけるメッセージの標準化をさらに推進するため、既存規約の課題を洗い出し、現場のニーズや技術的進展を踏まえた改定を行いました。特に今回は、IHE-PaLMDメインで策定された分析機に特化したLAWプロファイルのメッセージを新たに収載することで、オーダーエントリーから検査室内の分析機までをカバーする規約となり、より実務に即した内容となったと考えております。

WG活動を通じて、異なる立場のメンバーとの議論を重ねることで、多様な視点を取り入れた規約づくりができたことは大きな成果であり、私自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

今後は、策定した規約の普及と現場での実装支援に力を入れてまいります。標準化は策定して終わりではなく、現場で活用されて初めてその価値が発揮されます。JAHIS会員の皆様には、ぜひ現場の声をお寄せいただき、共により良い医療情報環境の構築を目指していければと願っております。

最後に、今回の表彰はWGメンバー全員の努力の賜物です。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げます。今後ともJAHISの活動に積極的にに関わり、医療情報の標準化に貢献してまいります。

功績賞 標準化推進部会

HIMSS調査報告書執筆・編集・公開による
JAHIS国際活動拡大への貢献

国際標準化委員会
副委員長
日本アイ・ピー・エム(株)

いで だいすけ
井出 大介



受賞理由：

- 2024年3月に米国オーランドで開催されたHIMSS24に現地参加し、医療従事者、IT専門家、政策立案者等によるセッションを受講・学習し、調査報告書を自ら執筆するとともに、自らを含む5名の執筆者による原文のとりまとめや編集に貢献した。（報告書作成期間：2024年4月～7月）
- 149ページに及ぶ調査報告書は、初稿作成→クロスチェック→マージ→最終校閲→発行というプロセスで作成したが、所属企業が異なる5名の執筆者が効果的に高品質な作業を行うことができたのは、クラウド上にプロセス毎の作業スペースを設定し、提供してくれた井出氏の貢献が大きい。
- 調査報告書には、米国を中心とした医療情報システムの最新技術動向や課題、相互運用性、最近3年間のHIMSSの変遷等が記載されており、JAHISホームページ※で公開されている。この公開によって、JAHIS会員をはじめ、医療情報関係者にも活用されることが大いに期待される。（※JAHISホームページトップ>部会情報>標準化推進部会>国際活動）
- HIMSS開催地にて、産・学・官とのネットワーク強化を行い、JAHISのプレゼンス向上にも貢献した。なお、井出氏は2025年3月に米国ラスベガスで開催されたHIMSS25にも現地参加しており、報告書は2025年8月に公開予定で作成中。

井出大介さんのコメント：

この度は第15期定時社員総会において功績賞を表彰いただき、誠にありがとうございます。2019年より国際標準化委員会の活動に参加致しましたが、ちょうど世界的なパンデミックのタイミングと重なってしまい、海外渡航が可能となるまでの間、長らくJAHISとしての活動・貢献を果たすことができませんでした。

2024年に初めてオランダで開催されたHIMSS24の視察に参加し、各国におけるこのパンデミックが、医療政策・医療システムへの取り組みを変革させる、大きな潮目となったことを肌で感じました。カンファレンスの詳細につきましては、是非とも視察メンバーと執筆致しました「HIMSS24 調査報告」をご一読いただけますと幸いです。

今後も当委員会での活動を通じて、国際エキスパートとして第一線で活躍される委員の皆様のように、国内および国際的な標準化活動に寄与できる人材へと成長できるよう、研鑽を積み重ねてまいります。引き続きのご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

功績賞（連名）

医療システム部会

DICOM Standard Committee日本開催（JAHIS・JIRA合同）の貢献



部門システム委員会 委員長
(株)日立ハイテク

ふくしげ ふみお
福重 二三男

部門システム委員会
副委員長
シスメックスCNA(株)

こんどう めぐみ
近藤 恵美

部門システム委員会
DICOM WG 委員
富士フイルム(株)

むらた まさお
村田 公生

受賞理由：

- 7年ぶりに開催されたDSC日本開催の成功に貢献した。イベントは3日間にわたり、初日はWG10とWG29、2日目にDSC、3日目にはJapan Dayが行われ、参加者は36名、そのうち海外からの参加者は8名であった。この成功により国際的な交流が実現された。
- DSC開催に向けて、数か月前から入念に準備を進めた。多くの打ち合わせと準備物の確認を行い、イベント当日は計画的な運営とおもてなしを実施した。
- 国内外にわたるJAHISの活動を効果的にアピールすることができた。特に3日目では、日本国内での取り組みについて発表し、JAHISからは組織紹介をはじめ、内視鏡関連や病理関連のトピックを紹介する場を設けた。

福重二三男さん、近藤恵美さん、村田公生さんのコメント：

この度は、DICOM Standard Committee（以下、DSCという）日本開催（JAHIS・JIRA合同）に対して、功績賞という栄えある賞をいただき、大変嬉しく思います。

DSCは年に3回開催されるDICOMの方針を検討・決定する会議で、毎年12月は米国で米国放射線学会に合わせて開催されますが、それ以外の2回はメンバーの国持ち回りで開催されます。2024年9月は日本で開催されることになり、数カ月前からJIRAと協力して入念な準備を行い、開催いたしました。準備は、会議室の確保、参加者の確認、コーヒーやおやつ準備、当日の会場設営、ビル1Fから会議室までの案内、懇親会の手配、JIRA/JAHISの費用負担の調整まで多岐にわたり

ました。さらに日本で開催するのに日本の参加者が少なかったら体裁が悪いと考え、JAHIS内で広く参加を募ったりもしました。懇親会は、来日メンバーに日本食を楽しんでもらえるようなお店を選び、下見にも行きました。そのかいあってか、参加した皆様、とても楽しそうでした。

DSC日本開催は、我々だけでなしたことはありません。事務局の皆様、ご参加いただいた皆様のご協力なしでは成功できなかったと思います。あらためて、御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回いただいた功績賞を糧に、今後も国際交流を含め、JAHIS活動に邁進してまいりたいと思います。この度は、誠にありがとうございました。

功績賞（連名）	事業推進部		
日本薬剤師会学術大会併設IT機器出展規模拡大への貢献		日薬展示委員会 副委員長 東日本メディコム(株) にしむら ひさお 西村 寿夫	
	日薬展示委員会 副委員長 ウィーメックス(株) おおさく み 大作 はる美	日薬展示委員会 副委員長 (株)ユニケソフトウェアリサーチ やまもと ゆうき 山本 祐樹	

受賞理由：

1. 第57回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（埼玉県さいたま市）において、埼玉県薬剤師会との交渉等を経て、出展会場内のJAHIS出展エリア確保増に寄与した。結果、JAHISとして出展社数20社（フリーブース：460㎡、スタンダードブース：27小間）を確保できた。特にフリーブースにおいては、過去最大規模であった第50回東京大会を超える出展規模（東京大会フリーブース：420㎡）となった事により、大会参加者の動員に大きく貢献できた。
2. 本大会では日本薬剤師会からの依頼により、電子処方箋のデモンストレーション出展募集への協力依頼があり、出展各社への案内発信等を行い、3社の募集を得た。IT機器展示会場では、日本医師会等共同で医科システムと調剤システムを電子処方箋管理サーバのテスト運用環境を用いて連携し、電子処方箋の発行（医療機関）、受付（薬局）、調剤結果の登録（薬局）、調剤結果の閲覧（医療機関）という一連の流れのデモンストレーションを実施した。多くの来場者が電子処方箋に対する一連の流れが確認できた事で大変盛況となり、関係団体に対しJAHISのプレゼンスを高める事が出来た。
3. 並行して、「第58回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（京都府京都市）」、「第59回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（新潟県新潟市）」に向けて、京都府薬剤師会や新潟県薬剤師会へアプローチを行い、来年度以降の委託継続の足掛かりを作った。

西村寿夫さんのコメント：

この度は2025年定時社員総会におきまして功績賞の表彰をいただき誠にありがとうございます。賞選考に関わった皆様に厚く御礼申し上げます。

事業推進部日薬展示委員会の活動は、毎年秋に開催される日本薬剤師会学術大会でのIT機器展示会の運営全般をJAHISにて担当させて頂くことです。この活動の起点として学術大会の開催年の前年の3月頃に開催地の薬剤師会様を訪問し、

JAHISの活動内容と過去の開催実績等を紹介し学術大会でのIT機器展示会の運営全般をJAHISにて担当させて頂く交渉から始まります。この交渉にてJAHISに任せて頂く了承を得られると、開催年に開催地の薬剤師会様を3回程訪問し、IT機器展示会への参加企業様の出展規模や実際の展示会場における配置図等の説明と了承を得て日本薬剤師会学術大会でのIT機器展示会の運営全般をJAHISにて担当することとなります。

昨年の第57回大会は埼玉県での開催、そして今年の第58回大会は京都府での開催でその作業に当たっているところです。また、来年の第59回大会は新潟県での開催ですが既に1回目の訪問を終えJAHISにて担当させて頂くことで了承が得られています。

日薬展示委員会の活動は事業推進部の収益事業の柱のひとつとして大きな役割を担っており、今後も誠意をもって開催地の薬剤師会様との交渉を行い事業推進部の収益に貢献していきたいと思っています。

山本祐樹さんのコメント：

この度は2025年提示社員総会にて表彰を頂き、誠にありがとうございました。

ご協力頂いたメンバーの方々、及び賞にご推薦頂いた皆様へ御礼申し上げます。

開催回数としてすでに57回を数える歴史とそれにふさわしい開催規模を誇る日本薬剤師会学術大会において、IT機器展示コーナーの運営にあたり、出展社及び薬剤師会様との取りまとめを行うのが、当委員会の主目的です。

昨今、特に医療DXの進展は目まぐるしく、医療に携わる方々にとってもその変化をそのスピード感についていくのが困難になっているのが現況かと考えます。

そんな中第57回の日本薬剤師会学術大会ではさいたまスーパーアリーナという規模、アクセスとも絶好の環境で、埼玉県薬剤師会様の意欲的な運営もあり、過去最大規模の盛況となったことは誠に嬉しく思います。特に日本薬剤師会からの依頼により実施した電子処方箋を体験するための出展募集では、実際に電子処方箋がどのようなフローで運営されているのか実体験ができるコーナーを設け、参加した薬剤師に「今起きている変化を体験」する機会を提供したことで、大きな関心を集めることができました。当ブースが大変盛況であったことはJAHISの運営能力、出展各社へのアプローチ力などを改めて評価頂ける機会になったのではと考えております。

また日薬展示委員会での活動も2年目ですが皆様のご指導・ご鞭撻をいただき、学びながら、大会及びJAHISの活動の発展に貢献できるよう尽力いたします。

この度はありがとうございました。

功績賞（グループ）		戦略企画部			
JAHIS2030ビジョン（改訂版）発行				企画員会 委員長 ウィーメックス(株)	
				にしむら たけとし 西村 剛敏	
副委員長 日立製作所(株) こくぶ よしのり 国分 令典		委員 (株)シーエスアイ にいざと まさのり 新里 正則		委員 富士通Japan(株) もりもと たくと 守本 拓人	
				委員 日本電気(株) なかた ひでお 中田 英男	
委員 富士通Japan(株) やまうち としゆき 山内 俊幸		委員 富士通Japan(株) おぎの やすはる 荻野 康晴		委員 ウィーメックス(株) たむら かつのり 田村 勝則	
				委員 日本アイ・ピー・エム(株) しもやま あかぎ 下山 赤城	
委員 キヤノンメディカルシステムズ(株) きど すみこ 木戸 須美子		委員 富士フイルム(株) みつぎ もとひろ 光城 元博		委員 (株)NTTデータ なかもつ たかし 中光 敬	
				委員 キヤノンメディカルシステムズ(株) たなか としお 田中 利夫	
委員 日本電気(株) あらがき よしひと 新垣 淑仁		委員 日本電気(株) なみかわ ひろかず 並川 寛和		委員 日本電気(株) ふくま こうじ 福岡 衡治	



受賞理由：

- 健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現をめざした「JAHIS2030ビジョン」の改訂版策定を企画し、1年半にわたる検討を重ね、JAHIS創立30周年記念イベントにあわせて2025年1月に発刊した。
- 発刊した「2030ビジョン（改訂版）」により以下が可能となると考える。
 - ①国民のために真に役立つ保健医療福祉情報システムのビジョンの内外への提示
 - ②保健医療福祉情報システムのビジョンを基に、関連団体・関連機関と議論・討論を活性化し、社会全般の情報化推進活動との整合性を確保
 - ③ビジョン実現に向けたJAHIS各委員会活動の目標設定や活動の指針として活用

西村剛敏さんのコメント：

この度は、功績賞グループ表彰をいただきまして誠にありがとうございます。JAHIS2030ビジョン（改訂版）は企画委員会のメンバーが一丸となって取り組んだプロジェクトです。前回のビジョンから今回の内容や媒体の検討、製作を進めるにあたり二人三脚で取り組んでいただく制作会社の選定も含め、メンバーで要件を取りまとめながら進めてきました。

発行計画から1年6か月にわたる期間の中で、企画委員会のメンバー交代もありましたが、当初の目標通り、本年1月に発行を迎えることができました。原稿のレビューをはじめ、発行までの間に各部会、各委員会の皆様からご協力をいただいた賜物でもあります。この場を借りて皆様に御礼申し上げます。

また、JAHIS2030ビジョン（改訂版）はJAHISの活動指標であることだけでなく、より多くの国民、JAHISに関わる各団体の皆様にも認知、周知いただけるよう企画委員会では展開活動に取り組んでまいります。企画委員会のこれからの活動につきましても、引き続き皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。